

デザイナー 高齢者とペットを 支える会

高齢者とペットの 安心な暮らしを 地域で支える

2026. 3.20 (金)
13:30~15:00

参加者 6名



高齢者とペットの会がこれまでの活動に関わってきたケースを話してくれました。かわいそうだからと、高齢者が家の近くの猫に餌をあげてしまうが、避妊、去勢をしていないため、1年で16匹に増えてしまった例では、子猫にワクチン接種を行い里親探しをした。高齢者ゆえに避妊、去勢手術助成金の情報もなく、移動手段もなかったことが課題にある。

高齢者や障がいのある方がペットと安心して暮らし続けられるように、現在の介護保険制度や福祉サービスでは対応しきれない「ペットに関する困りごと」を、地域の関係者が連携して解決できる仕組みづくりを目指しています。

「家族の一員として支えていこう」がコンセプト



人のためにもペットのためにも仕組みを作る必要があると思う。

介護の現場では高齢者のことだけで精一杯。ペットのことまでは目がいけないのが現状。

こうして相談できる方がいることは安心です。

酪農地域など、その地区ならではの課題もある。



将来は動物看護の仕事に就きたい。

うえるるトーク終了後も話は尽きません。

まずは正しい飼い方を知ってもらう。情報を届けること。地域と連携して支えること。

全国的に動物愛護の機運が高まっているが、地方と都市部での差がある。

高齢者にとってペットと生活することは、可愛がる対象がいて生きがいにもなりとても良い事です。実際に犬がいるからどうしても家に帰りたいたいと、リハビリを頑張り元気になって家に帰ることができたおじいちゃんの例もあるそうです。散歩に行く、ごはんを買いに行く、など出かける機会も増えます。まずは飼い主がどうしたいのかを優先し、多方面にネットワークを広げることで解決策を模索しています。ペットもひとつの命であることを念頭に多くの方にこの活動を知ってもらい、必要な人に必要な情報が届く仕組みができることで、ペットにも高齢者にも優しい街に。そんなトークの時間でした。

高齢者がペットを飼うことは賛成。正しい飼い方が伝わっていないことが問題。

